

## 見直し案

# ようていあしばープロジェクト

「ようていあしばー」＝集まって遊ぼう

### 【プロジェクト内容】

当初計画していた総合交流施設の建設事業は、事業費の増大や将来的な財政負担、人口構造の変化等を踏まえ、建設を中止し既存施設を最大限に活用・機能強化する方針へ転換しました。具体的には、子どもから高齢者まで幅広い町民が日常的に利用している学校体育館への空調設備の導入や老朽化部分の改修、照明設備の更新など利用実態に即した環境整備を計画的に実施します。これにより、島内全域の既存施設を連携させ、種目ごとの特性を活かした「身近で使いやすく、安全で快適なスポーツ環境」の構築を目指します。

### 【未来の暮らし】

夏場の厳しい暑さの中でも空調の効いた体育館では、子どもたちが熱中症の不安なく練習に励み、高齢者等が爽やかにスポーツを楽しむ姿が見られます。また雨の日や冬場でも各世代が自分のペースで健康づくりや文化サークル活動を継続でき、年間を通じて活気あるコミュニティが維持されています。また LED 照明が整備された町内のグラウンドやテニスコートでは、夜間でも明るい環境で仕事帰りの町民や地域チームがスポーツを楽しんでいます。身近な場所が整備されたことで、遠方の施設へ行かなくても、地域ごとに住民が集い健康的なライフスタイルを享受できています。

普段からスポーツや行事で使い慣れている地域の体育館が、最新の防災設備と救援物資を備えた避難所として整備されています。町民は災害時においても「いつもの場所」へ避難し空調による適切な温度管理のもとで安全に過ごすことができるという確かな安心感を持ちながら暮らしています。

島外や郡内から多くの競技者が集まる大会が定期的に行われ、町全体に活気が溢れています。町民は自慢の快適な施設で来客をもてなし、スポーツを通じて生まれる新しい交流や和泊町ならではの魅力的なスポーツ環境に誇りを感じる暮らしが実現しました。新しく構築された生涯学習ポータルサイトにより、町民はスマートデバイスから簡単に施設の空き状況を確認したり、スポーツ大会の結果やイベント情報を入手したりできるようになります。これまで以上に気軽に施設予約と活発な交流が促進されます。



## 【課題】

当初計画していた大規模な総合交流施設建設は近年の建設資材や人件費の高騰による事業費の大幅な増大に加え、維持管理に伴う将来的な財政負担が懸念されていました。また人口減少や少子高齢化の進行といった町民生活を取り巻く環境の変化を踏まえ、限られた財源を老朽化した既存公共施設やインフラの大規模改修・更新へ優先的に配分する必要が生じています。

町内の既存体育館や社会体育施設は経年劣化が激しく、床の張替えや雨漏り対策、トイレの洋式化など安全に利用するための大規模修繕が喫緊の課題となっています。特に酷暑における屋内施設の熱中症対策の欠如や夜間照明の照度不足などが全世代の町民が気軽に活動する上での障壁となっていました。

中心的な活動拠点となる和泊中学校体育館などは、学校教育施設であるため、平日の日中など学校教育活動との調整が必要になります。今後、部活動の地域展開を見据え、学校施設を「社会教育の場」としていかに円滑に運用・管理していくかという運営面での体制構築が求められています。

## 【メリット】

- ・和泊中学校体育館への空調設備導入により、夏場の酷暑日でも子どもから高齢者までが熱中症のリスクを抑え、安全かつ快適にスポーツやイベントに参加できる環境が整います。これは大島地区内でも先駆的な取組であり、快適な競技環境を強みとした郡大会等の積極的な誘致を通じて、宿泊・飲食といった地域経済の活性化も期待できます。
- ・一箇所に大規模施設を作るのではなく、ヤーシチ公園、町民運動広場、各小学校（和泊・国頭・大城・内城）といった町民にとって身近な既存施設の夜間照明をLED化し、トイレの洋式化や床の張替え等、適正管理を計画的に実施します。これにより町民が住んでいる地域の近くで、より安全かつ快適に活動できる場所が同時に複数確保されます。
- ・既存の避難所としての機能を再定義し、空調設備の整備に加えて救援物資等の計画的な備蓄・配備を進めることで、有事の際の居住環境を大幅に改善します。これにより高齢者や子どもを含む町民が災害時により安心して避難生活を過ごせる体制が構築されます。
- ・部活動の地域展開を見据え、和泊中学校などの学校施設を「社会教育の場」として再定義します。空調整備や適正管理により、学校教育活動以外にも子どもから高齢者までが多目的に集える「地域の交流拠点」としての機能が強化されます。

